SOPHIA U

2025年度秋学期
大学授業アンケート集計・分析報告

FD委員会・IR推進室

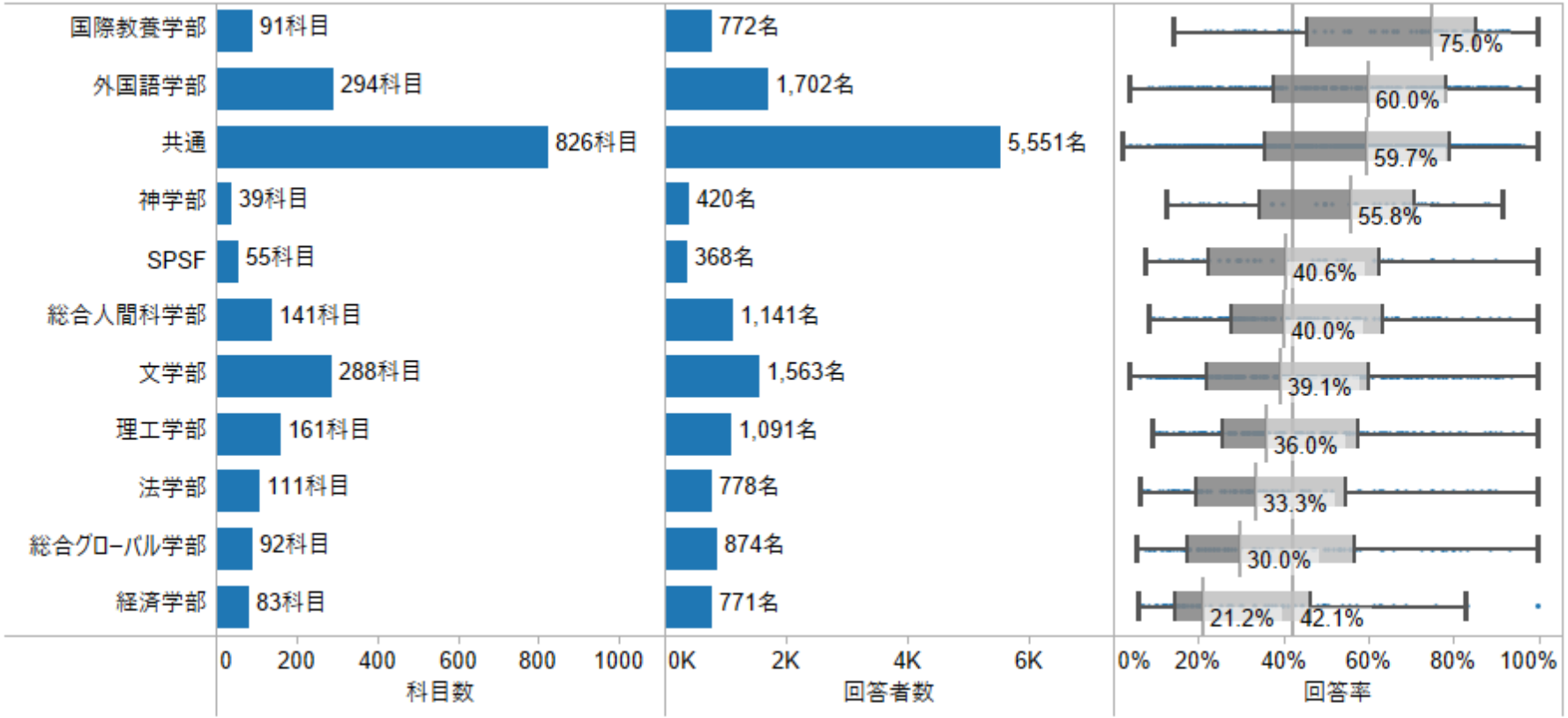
エグゼクティブサマリー

1. **満足度の構造**
   - **説明が不可欠な土台**: わかりやすさ（Q1）が不十分だと、AL導入に関わらず満足度は3.15に低迷する。
   - **ブーストとしてのAL**: 明快な解説の上にALを乗せることで、満足度は最高値（4.62）へと引き上がる。
2. **AL実施の閾値**
   - **中途半端な実施の限界**: スコア2〜4では満足度に変化なし。形式的な導入は価値として認識されない。
   - **徹底した実施の効果**: スコア5（最高評価）で満足度が4.69へ急上昇。極めて高い質が不可欠である。
3. **学問特性の適合性**
   - **実践分野で高評価**: 語学や実験系学科では、参加が満足度に直結する強い相関を確認。
   - **思索分野での慎重さ**: 哲学・社会学では相関が低く、無理な議論より講義の質が優先される傾向にある。
4. **自由記述のインサイト**
   - **「まず説明」へのニーズ**: 評価点の最多は「説明の丁寧さ」。明確な指針を学生は求めている。
   - **負担と評価への懸念**: 改善要望では「課題の重さ」と「評価の不明瞭さ」が上位にランクイン。
5. **成長感と対話**
   - **成長実感との連動**: ALは単なる活動ではなく、「自分が成長した実感」を介して満足度を支える。
   - **フィードバックの価値**: 教員との密なやり取り（Q3）が、授業の質を底上げする決定的な鍵。

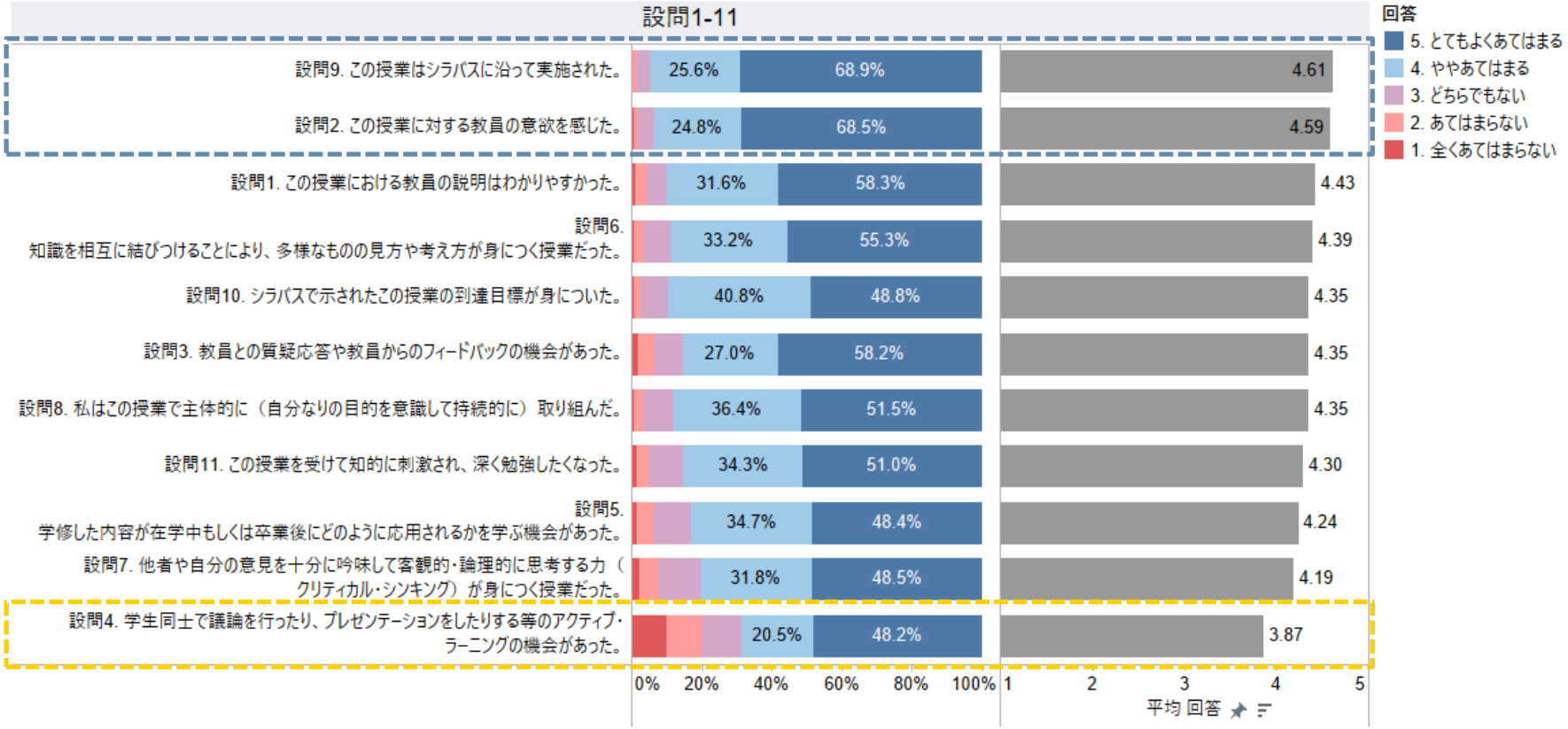
設問一覧

- 設問1　この授業における教員の説明はわかりやすかった。
- 設問2　この授業に対する教員の意欲を感じた。
- 設問3　教員との質疑応答や教員からのフィードバックの機会があった。
- 設問4　学生同士で議論を行ったり、プレゼンテーションをしたりする等のアクティブ・ラーニングの機会（オンライン掲示板等含む）があった。
- 設問5　学修した内容が在学中もしくは卒業後にどのように応用されるかを学ぶ機会があった。
- 設問6　知識を相互に結びつけることにより、多様なものの見方や考え方が身につく授業だった。
- 設問7　他者や自分の意見を十分に吟味して客観的・論理的に思考する力（クリティカル・シンキング）が身につく授業だった。
- 設問8　私はこの授業で主体的に（自分なりの目的を意識して持続的に）取り組んだ。
- 設問9　この授業はシラバスに沿って実施された。
- 設問10　シラバスで示されたこの授業の到達目標が身についた。
- 設問11　この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった。
- 設問12　この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。
- 設問13　この授業の満足度を教えてください。

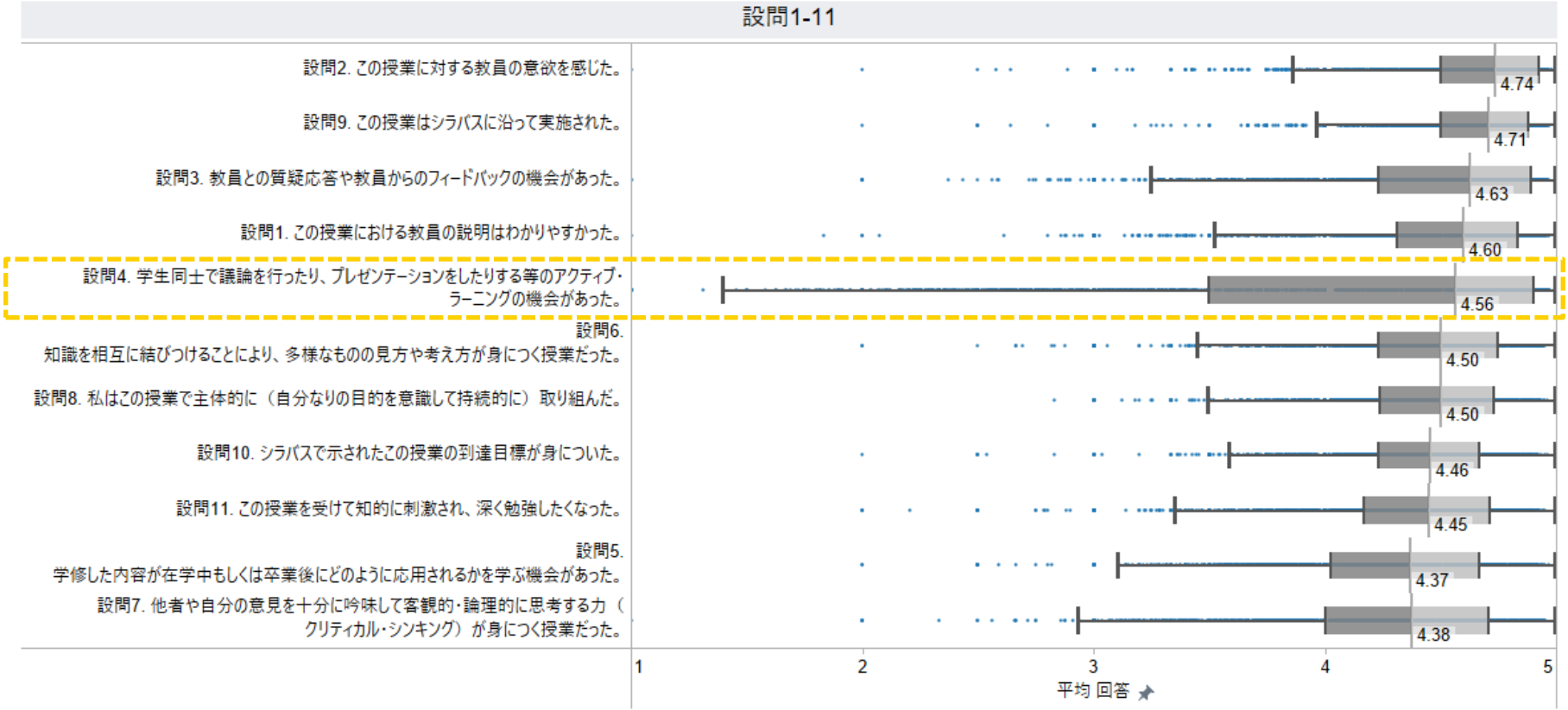
全体の回答率は42.1%。学部によってバラツキが大きい。



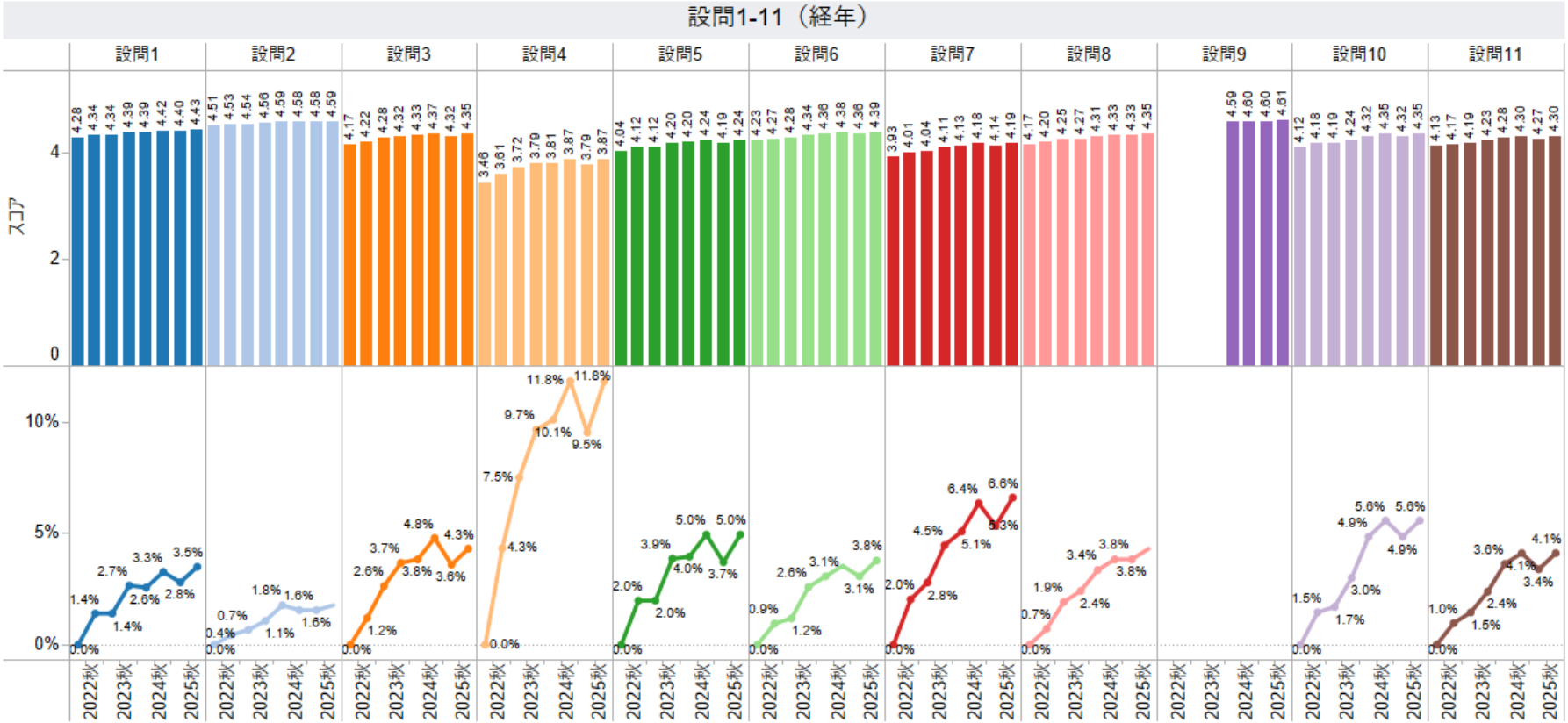
設問9「シラバスに沿っていた」設問2「教員の意欲」がとくに高評価。
設問４「ALの機会」の平均が低い。



中央値でみると設問4「ALの機会」はそれほど低くなく、バラツキが非常に大きい。

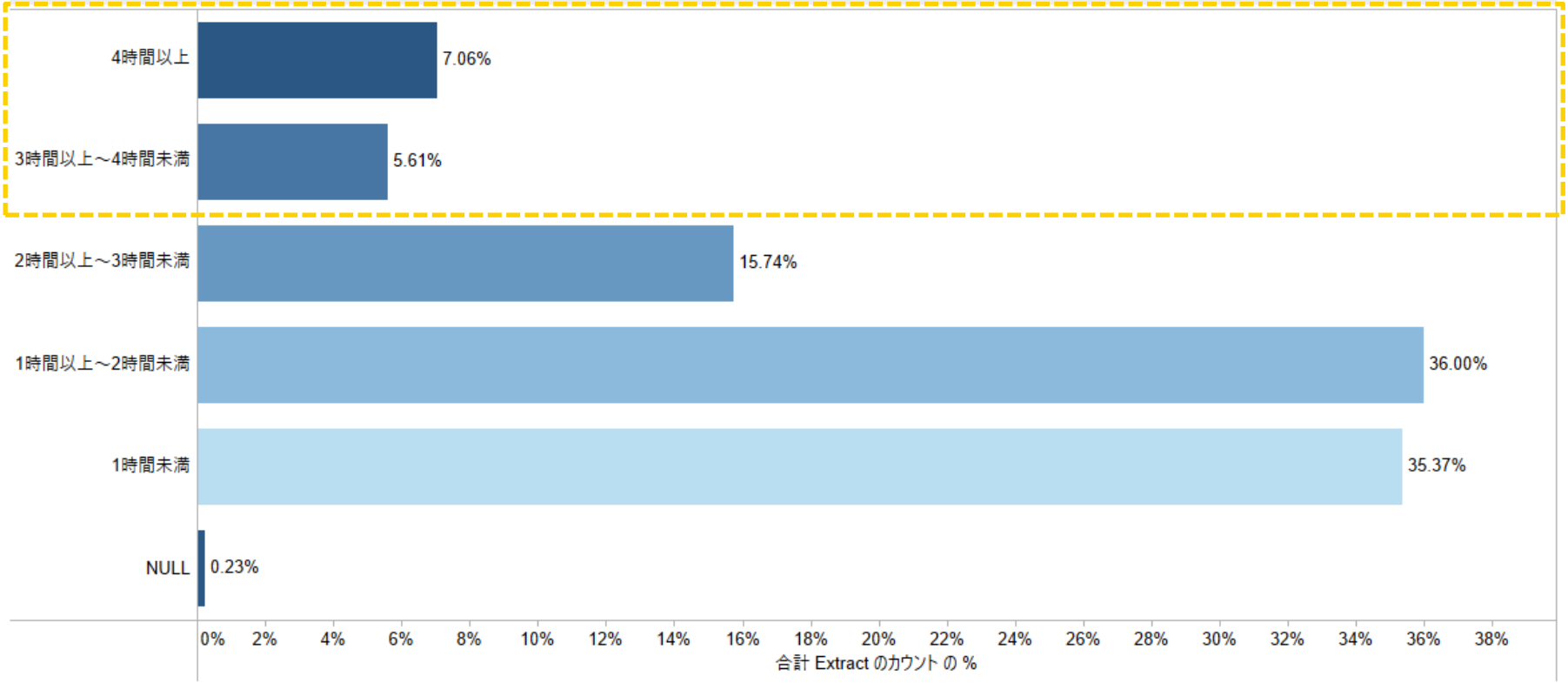


2025春と比較して若干スコアが伸び、2024秋の水準に。

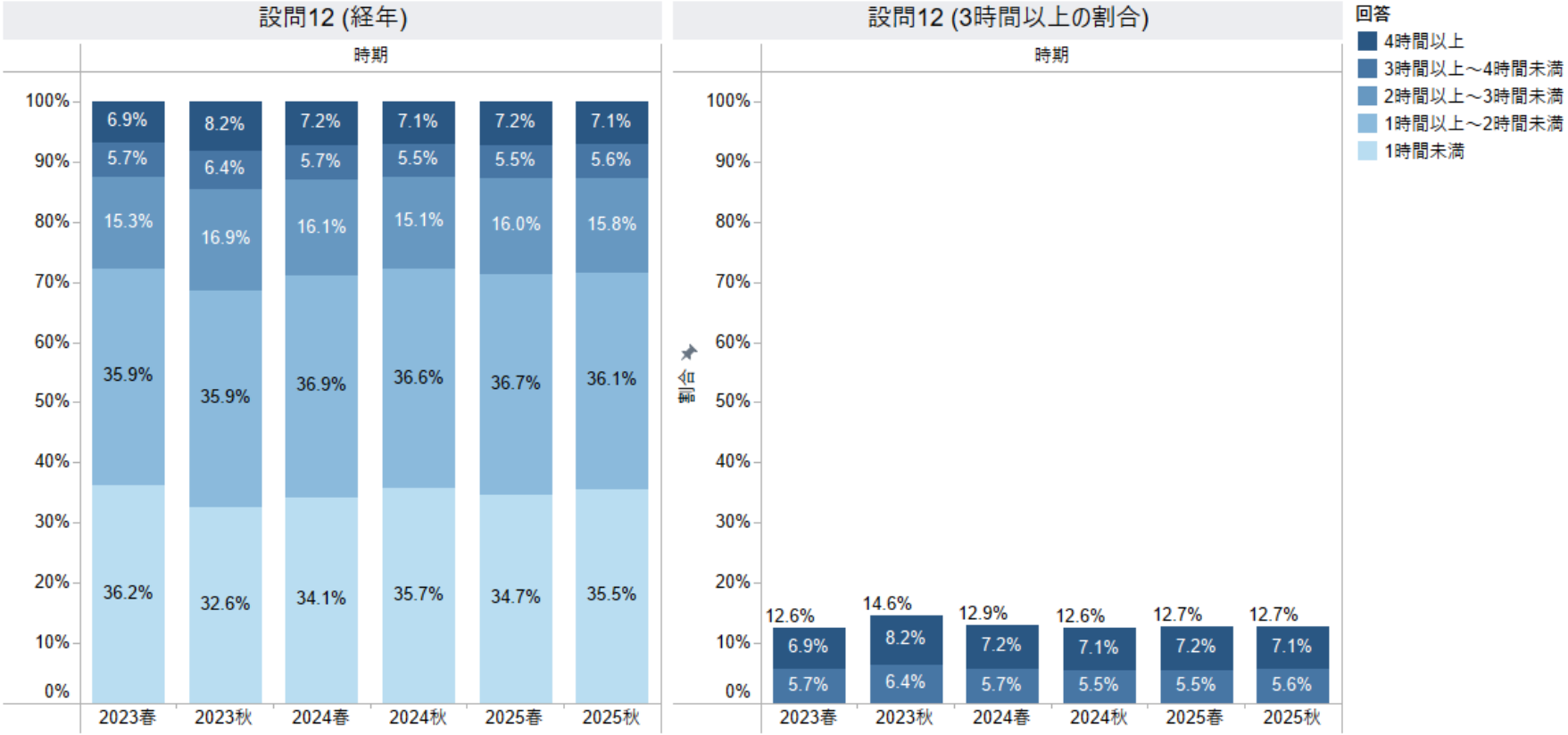


3時間以上の授業外学修時間をした学生は12.7%

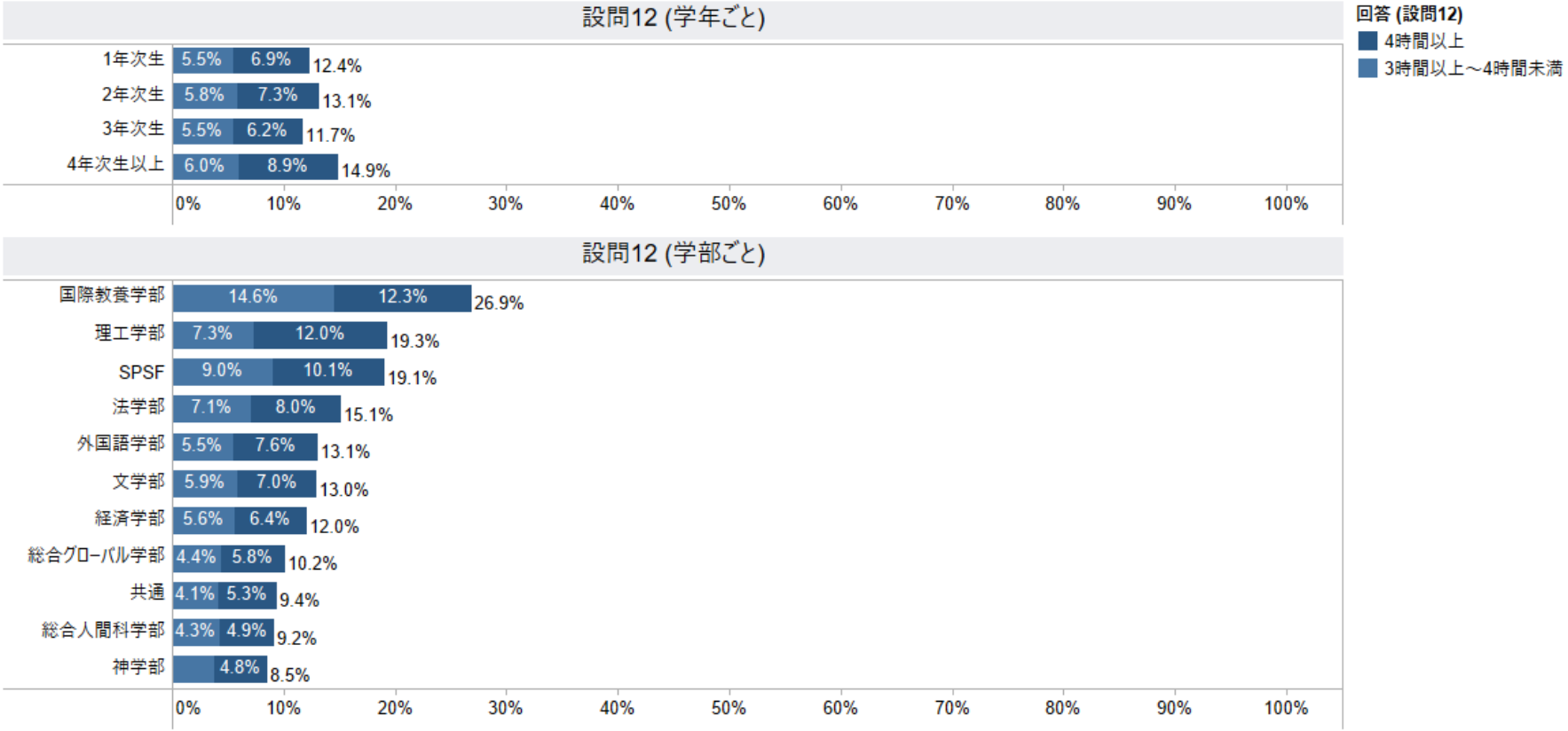
設問12. この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。



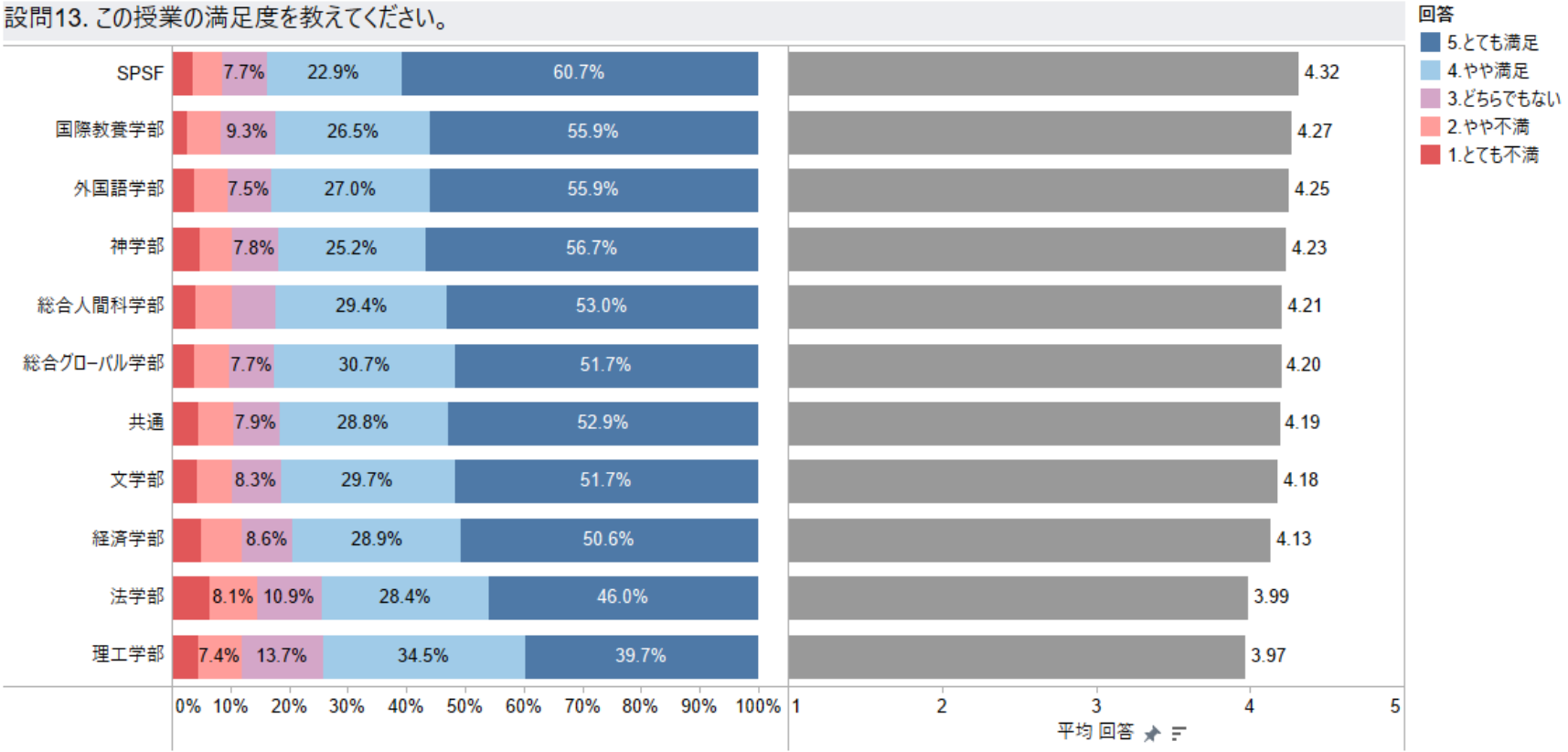
授業外学修時間は経年での変化がほとんどない。



4 年次生以上が3時間以上の割合が高い。
また、FLA、次いで理工学部、SPSFで３時間以上の割合が高い。



設問13「満足度」はおおむね良好。学部間の差もほとんどない。



「わかりやすさ」が満足度の鍵

Correlation Matrix (930x410)

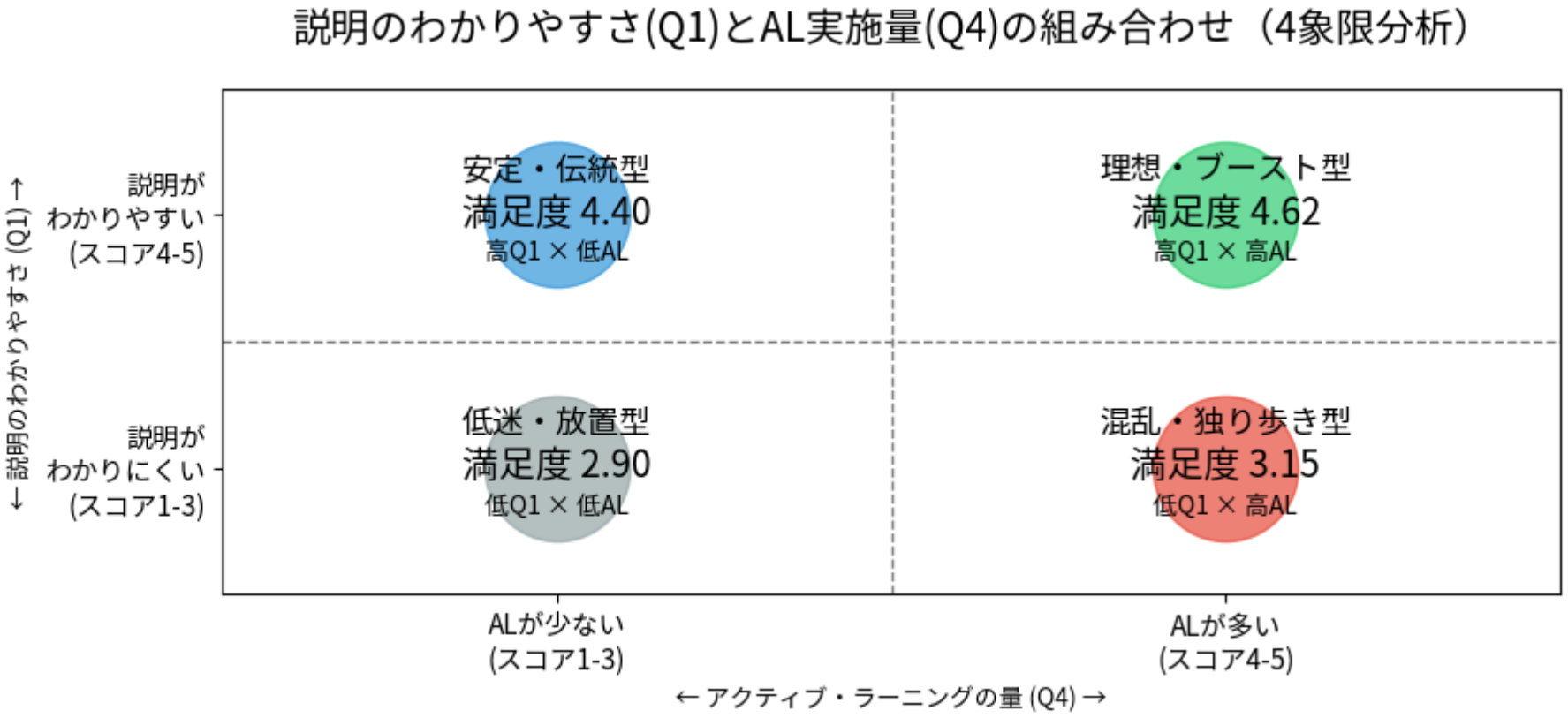
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13
設問1	1.00	0.65	0.48	0.31	0.52	0.58	0.48	0.52	0.49	0.60	0.61	0.06	0.72
設問2	0.65	1.00	0.50	0.31	0.45	0.54	0.46	0.46	0.48	0.51	0.51	0.06	0.60
設問3	0.48	0.50	1.00	0.48	0.43	0.46	0.49	0.42	0.37	0.44	0.43	0.13	0.47
設問4	0.31	0.31	0.48	1.00	0.37	0.35	0.51	0.34	0.22	0.32	0.28	0.16	0.30
設問5	0.52	0.45	0.43	0.37	1.00	0.64	0.55	0.52	0.41	0.55	0.58	0.14	0.54
設問6	0.58	0.54	0.46	0.35	0.64	1.00	0.67	0.56	0.46	0.59	0.64	0.12	0.60
設問7	0.48	0.46	0.49	0.51	0.55	0.67	1.00	0.52	0.37	0.52	0.53	0.16	0.50
設問8	0.52	0.46	0.42	0.34	0.52	0.56	0.52	1.00	0.45	0.64	0.64	0.20	0.58
設問9	0.49	0.48	0.37	0.22	0.41	0.46	0.37	0.45	1.00	0.55	0.45	0.07	0.50
設問10	0.60	0.51	0.44	0.32	0.55	0.59	0.52	0.64	0.55	1.00	0.67	0.14	0.63
設問11	0.61	0.51	0.43	0.28	0.58	0.64	0.53	0.64	0.45	0.67	1.00	0.15	0.69
設問12	0.06	0.06	0.13	0.16	0.14	0.12	0.16	0.20	0.07	0.14	0.15	1.00	0.07
設問13	0.72	0.60	0.47	0.30	0.54	0.60	0.50	0.58	0.50	0.63	0.69	0.07	1.00

1.0
0.8
0.6
0.4
0.2

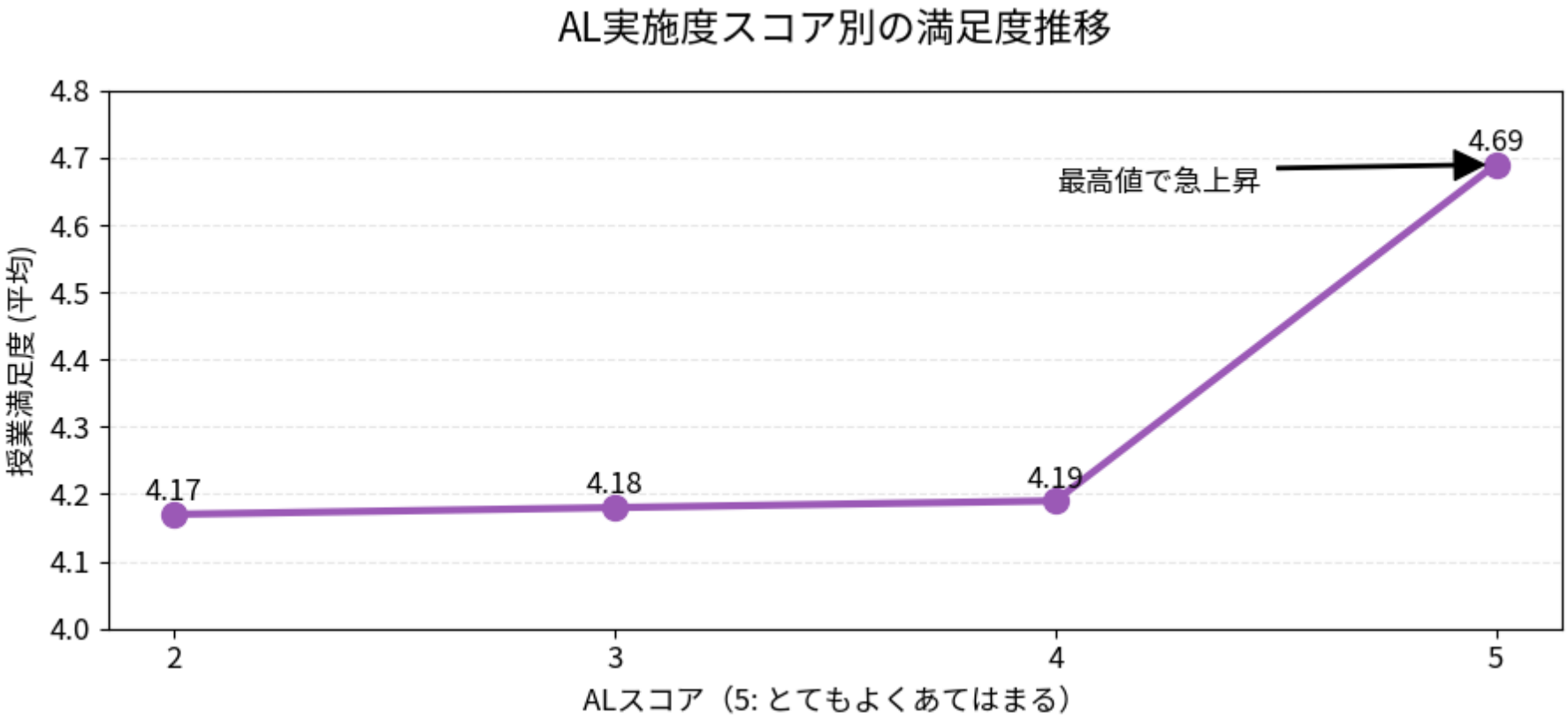
「熱意はあるが説明がわかりにくい授業」よりも、「熱意はそれほど感じないが説明がわかりやすい授業」の方が満足度が高い

授業タイプ	平均満足度	科目数	特徴
1. 理想型 (高明快・高熱意)	**4.70**	477	圧倒的に満足度が高い王道の授業。
2. クリア・ドライ型 (高明快・低熱意)	**4.53**	105	熱意はそこまで伝わらなくても、説明が分かりやすければ高評価。
3. パッション型 (低明快・高熱意)	**4.32**	123	熱意はあっても、説明が分かりにくいと満足度は伸び悩む。
4. 要改善型 (低明快・低熱意)	**4.13**	459	満足度が最も低い。科目数も多く、改善の余地が大きい。

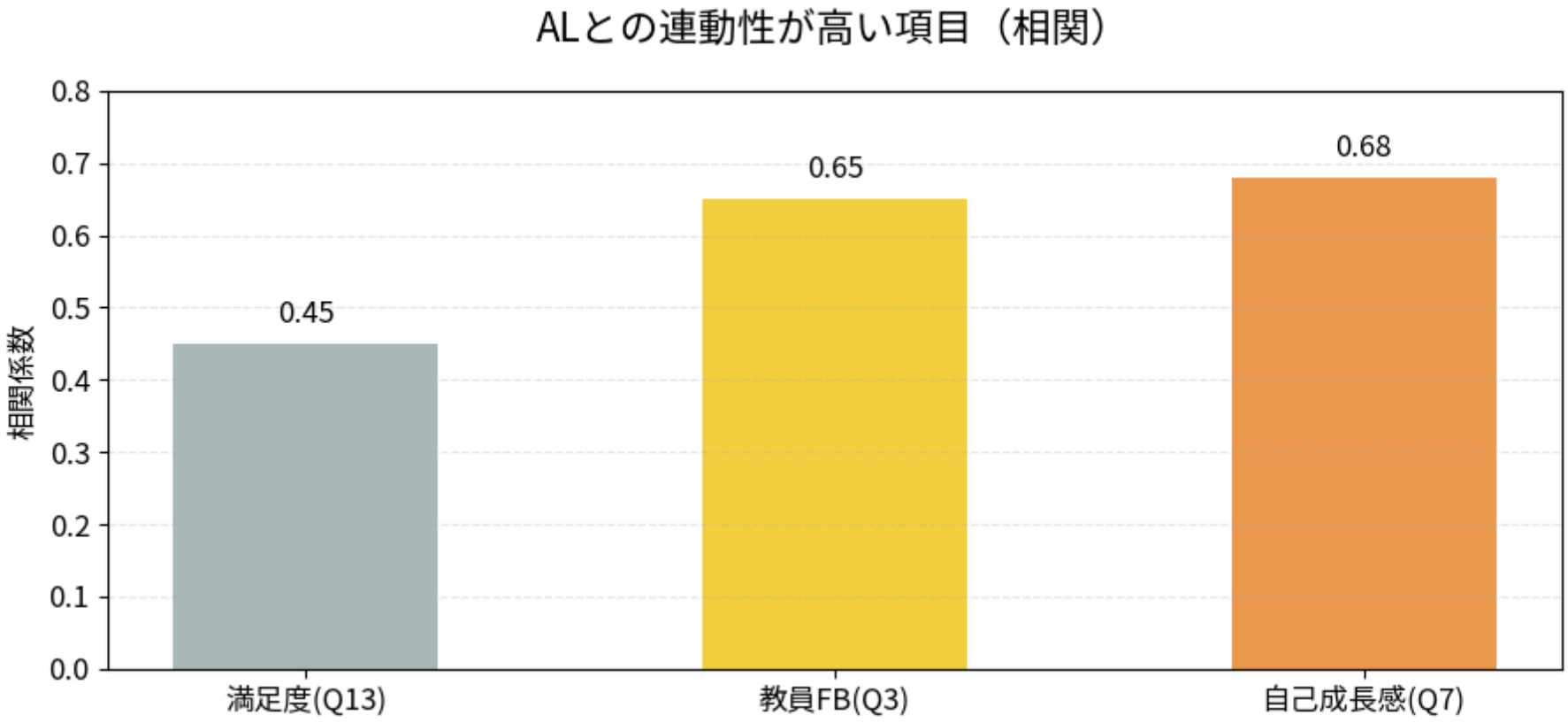
「説明のわかりやすさ」がない状態でALを導入しても、満足度は低いまま



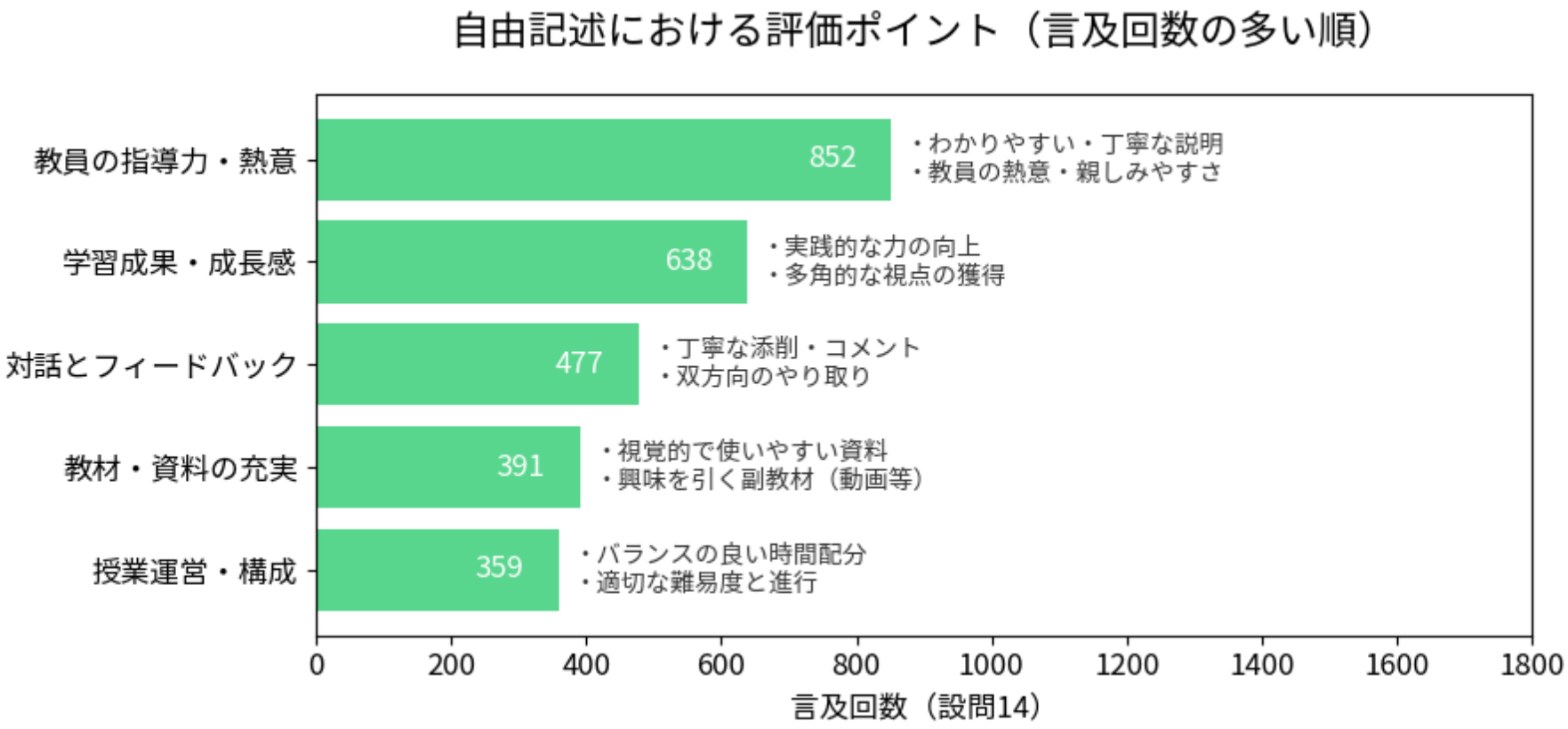
「中途半端なAL」は評価されない



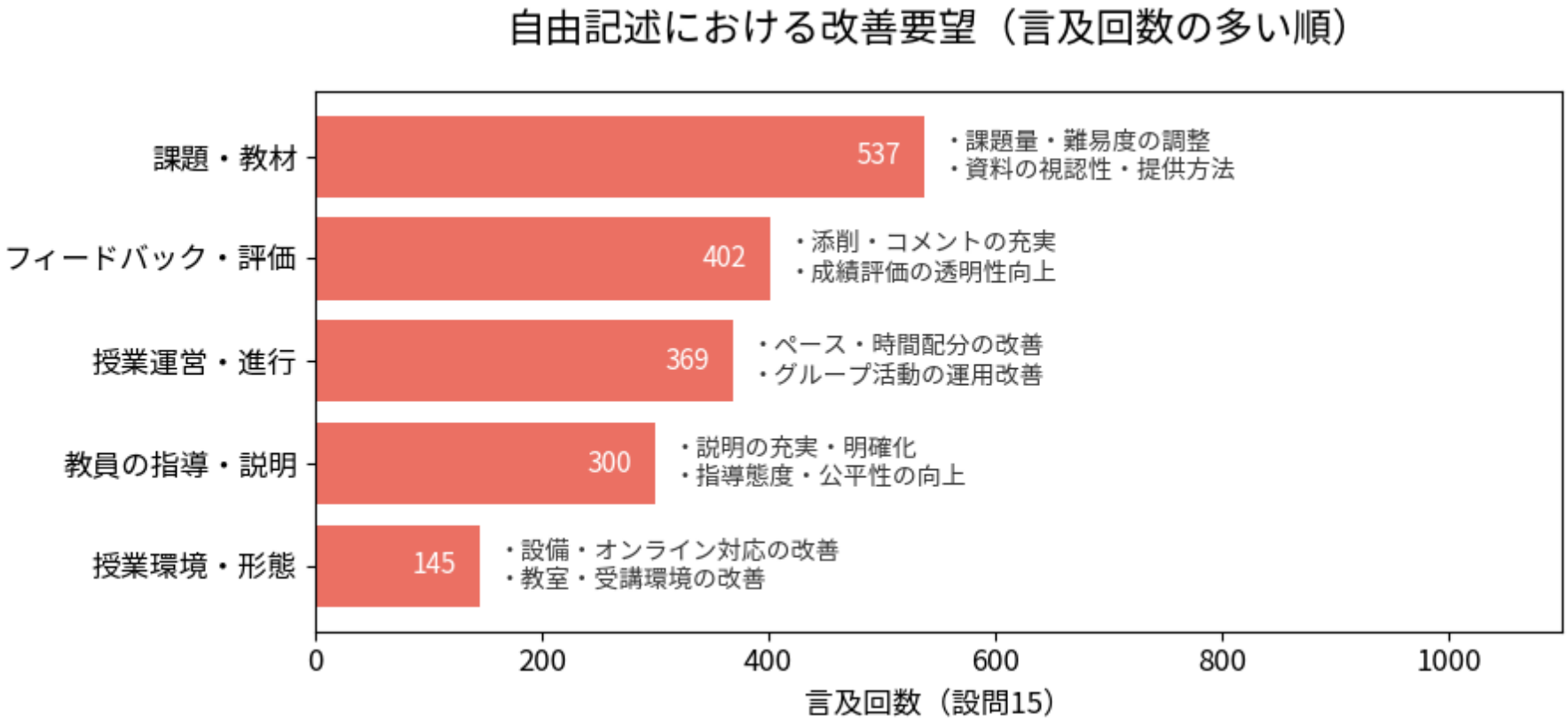
ALが「自分が成長したという実感」や「教員とのやり取り」を介して授業の質を支えている。



学生が「良かった点」として挙げた項目のトップは、圧倒的に「教員の指導力・熱意」。



「改善が必要な点」の筆頭は「課題・教材」に関するもの。



まとめ（結論と今後の提言）

1. 「解説 ＋ 活動」の順序
   - **解説ファーストの徹底**: まず明快な解説を行い、その上で質の高い参加機会を作る順序を標準化する。
   - **目的の明確化**: 「丸投げ」を防ぐため、活動の狙いと手順を事前にわかりやすく提示する。
2. 「量」から「質」への転換
   - **「スコア5」を目指す設計**: 形式的なワークを減らし、徹底した設計による「深い参加」を促す。
   - **低付加価値活動の削減**: 学生が「時間稼ぎ」と感じる形式的議論は、講義時間に振り替えるべき。
3. 学科特性に応じた設計
   - **手法の使い分け**: 学問分野の特性（実践型か理論型か）に合わせ、最適な教育手法を選択する。
   - **多様なスタイルの容認**: 理論重視の科目では、議論に固執せず資料や論理構成の改善を優先する。
4. フィードバックの強化
   - **FBの迅速化・可視化**: 提出物への短評や全体講評をルーチン化し、学生との「対話」を増やす。
   - **LMSの有効活用**: Moodle等の活用により、多人数授業でも双方向性を確保する工夫を行う。
5. 学修負担の適正化
   - **課題量の平準化**: 特定の週に負担が集中しないよう、学科内での課題時期や分量を調整する。
   - **学修時間の明示**: 予習・復習の必要時間を具体化し、実負担との乖離をモニタリングする。

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

For Others, With Others